

社員とその家族を大切に するために 斬新な発想と技術力で 環境改善

白鷺電気工業株式会社



フリーアドレスでレイアウトされたオフィス

1947(昭和22)年創業の白鷺電気工業株式会社は、柱上変圧器^{*1}修理の業務委託としてスタートした電気工事のエキスパートだ。主に九州電力の変電・送電設備の工事を請け負うことで、電力が社会に浸透するのにもない、社業を発展させてきた。本社の太陽光発電施設や、熊本県では民間第一号(自動車関連と電力会社を除く)となる電気自動車用急速充電器の設置など、先進技術にも果敢にチャレンジし続けている。また、熊本地震を機に移転した本社ビルは、エネルギーの地産地消を行うZEB^{*2}として改修。移転の際は女性社員の意見を取り入れてオフィスのレイアウトを大胆に変更するなど、社員とその家族の幸せを第一に考える「幸福度No.1企業」を目指した施策を次々と実施している。

そこで、同社の健康と産業保健に関する取組について、沼田幸広代表取締役社長と人財DX室の原之園淳子副長、経営戦略室の松嶋まゆみ主任にお話を伺った。

本社移転を機に働きやすい環境を整備

同社では、2016年の熊本地震で本社社屋が半壊したことを機に、まったく新しい発想で本社移転に取り組み始める。その際沼田社長が示したのは、①環境に優しいビル、②ZEBの導入、③働き方改革という3つのコンセプトだった。このコンセプトを実現するための分科会の一つが「レイアウト委員会」であり、その中心的役割を果たしたのが原之園副長、松嶋主任だった。この委員会には、他の部門の部課長なども所属していたが、こちらは主に配置する部員の人数や、保管庫、倉庫関係のスペースなどを担当し、ロッカー室や休憩室なども含めたオフィス全般のデザインとレイアウトは、沼田社長いわく「ほとんどフリーハンドで」原之園副長と松嶋主任の2名に委ねられた。

「原之園さんとは、せっかく新社屋になるのなら、ぜひ社員に喜ばれるようなことをやりたいと話をしました。例えば、旧社屋では落ち着ける場所というのがあまりなく、寒い時も外に出て缶コーヒーを飲むといった光景が当たり前でした。そこでまず、美味しいコーヒーで『ホッと一息つける場所』をつくろうと考えました」と松嶋主任。一杯ずつ抽出して淹れる方式で、香りが高く立つマシンにこだわったという。

こうした思いを持ち寄り、2年間の検討を経て実現したのが、カフェコーナーの設置、ハイテーブルで外を眺めながら執務ができるエリアや、個人が集中できるブース、座りっぱなしを防ぐスタンディングデスクなどの、アイデアに溢れたオフィスだ。デスクの配置については、形もカラーも自由にレイアウトできるフリーアドレス（個人デスクを持たない）スタイルを採用した。「もちろん、専門家のアドバイスもいただきながらですが、本当に働きやすい快適な職場環境づくりができたと思っています」と沼田社長は高く評価している。

先端テクノロジーを活かし 社員と会社を守る

そしてもう一つ沼田社長がこだわったのは、自然エネルギーを利用した「地中熱利用換気システム」の導入だ。これは、年間を通して安定しているという地中熱の特性を利用して、冷暖房を効率的に行うというもの。空気を常にリフレッシュしながら、24時間強制換気ができるため、新型コロナの感染防止対策としても役立った。

コロナ対策という意味では、いち早く導入していたテレワークも業務の効率化と働き方改革に貢献したという。「当社がテレワークを導入したきっかけは、『保育園が休園になってしまう』ということで悩んでいた社員に、『だったらテレワークにしたらどう?』と社長が声をかけたのが始まりです」と松嶋主任。社員とその家族を守るという社風が如実に現れているエピソードだが、こうして浸透し始めたテレワークはコロナ禍でさらに拡大する。

「緊急事態宣言時には、県からの要請もありテレワーク率がさらに上がりました。社員からは、非常に業務がしやすくなったという声も届いていますし、何より通勤時間も含めた勤務時間の抑制に役立っています。ログオン・オフのデータはそのまま出退勤時間にもなりますので、管理が簡略化されました。基本的にテレワーク時には時間外勤務をしないという方針も徹底しています」と沼田社長はそのメリットを語る。

中小企業だからできる「顔の見える改革」

現在、力を入れている取組として「男性の育休取得」

を挙げるのは原之園副長だ。

「現場勤務の男性社員が多く、まとまった育休を取ることが困難でした。そこで社内に子供が生まれそうな社員がいると聞いたら、直接本人に『いつ取る?』と声かけを行うようにしています」と原之園副長。育休に限らず、一つひとつの施策について、本人への声かけで浸透させたい考えだ。全員の顔と名前が一致する中小企業だからこそできる対応だといえよう。この結果、男性社員の育休取得率は100%になった。「配偶者の方には大変好評ですが、『すぐに仕事に戻りたがるので、もっと長く取得させてほしい』といわれますので、取得日数を伸ばしていくのが私の役目だと思っています」と原之園副長は前向きだ。

そして、「仕事も育児も一生懸命やりたいという思いで、日々葛藤しながら働いています」と語るのは、今まさに子育て真っ最中の松嶋主任だ。自身の経験を、あとに続く社員たちへのアドバイスとして活かしたい、と考えているという。

「当社は、創業から一貫して家族も含めて社員を大切に社風です。現在は組織改編をしたばかりですし、世の中の動きもDX^{※3}化、働き方改革が叫ばれています。このチャンスを逃すことなく、新しい働き方に貪欲に取り組んでいきたい。社員が働きがいを感じてくれる環境を整えることで、自然に会社も発展していくのだと考えています」と沼田社長は今後の展望を語る。同社はこれからもその発想力と技術力で、社員と家族の「幸福度No.1企業」を目指し、力強く邁進していくに違いない。

※1 電柱の上に設置された筒状の変圧器のこと。

※2 環境省が提唱するNet Zero Energy Building（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の略称。「ゼブ」と呼ぶ。快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物のこと。

※3 データとデジタル技術を活用・浸透させることで、人々の生活をよりよいものへと変革させるという概念。革新的なイノベーションをもたらすものとして近年注目されている。

会社概要

白鷺電気工業株式会社

事業内容：電気工業、電力プラント事業、情報通信設備サービス事業、新電気エネルギー事業、快適電化サポート事業など

設立：1947年

従業員：130名

所在地：熊本県熊本市